

Aユニット 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902587		
法人名	有限会社オフィスマリヤマ		
事業所名	グループホーム花 Aユニット		
所在地	北海道旭川市春光台2条6丁目1-11		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902587-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様と良好な関係があり、対話やお便りなど入居者様との情報共有が出来ています。また、行事にお誘いすると、ほとんどのご家族様が参加されます。 ・町内会を含む地域、学校、幼稚園の方々との交流に力を入れており、入居者様は、花の行事、地域行事への参加、ボランティアなどを通じて交流する機会が多くあります。 ・菜園づくりを、種植えから収穫まで入居者様と一緒にやり、作物の成長や収穫の喜び、そして調理して食べる楽しみを共有できる環境にあります。 ・口腔ケアの質を高め、誤嚥性肺炎の発症防止に活かされています。また、看取りケアへも生かされています。 ・入居者様の帰宅願望による外出をかなえる為に、日々取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>旭川市内の福祉村の一角(春光台地区)の閑静な住宅街に開設11年目を迎える木造軸組構造2階建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。</p> <p>時間をかけて口腔ケアに力を入れて質を高め、誤嚥性肺炎の発症防止やターミナルケアに活かしていたり、家族会の協力を得ながら敬老会や収穫祭、祈願祭等の開催など多くの行事を採り入れながら楽しみごとや気分転換等の支援をしている。また、散歩やコンビニでの買い物、初詣や神社祭見物、町内のフラワーロードで花ポットの移植や町内の廃品回収、ごみ拾い等の行事参加など地元の人々との交流を兼ねながら戸外にでかける取り組みをしている。地域との交流・連携では、地元の女子高校で「認知症サポーター養成講座」の講師を務めたり、家族会や高校生、町内会のボランティアの協力を得て事業所主催の「夏祭り」や「収穫祭」を開催して、地元の人々との交流に努めている。</p>
--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

Aユニット 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	Aユニット 自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・年一回理念についての勉強会を開き、指針を明確化するとともに、前年度の評価を行い次年度につなげている。また、理念を基にした各自の目標や取り組みも明確にしている。 ・朝夕の申し送り等で理念を読み上げ、全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。 	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り、年1回研修会を開催したり、職員個々の具体的な目標を掲げ、気づきや振り返る機会を作り、その理念を共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の役員を務め、会議や行事へ参加しながら互いの意見の交換の場を作っている。 ・花主催の夏祭りは、地域のお祭りとして定着している。また、たくさんの町内や学生の皆さんにボランティアにてお手伝いを頂いている。 ・入居者様やスタッフは、地域のお祭り等に積極的に参加して交流の場を作っている。 	地域との交流・連携では、地元の女子高校で「認知症サポーター養成講座」の講師を務めたり、家族会や高校生、町内会のボランティアの協力を得て事業所主催の「夏祭り」や「収穫祭」を開催して、地元の人々との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で認知症サポーター養成講座を開催している。また、交流会や実習の受け入れを積極的に行っている。 ・地域の皆さんからの施設選びや認知症対応についての相談を受けている。 			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事故、ヒヤリハット報告、家族からの苦情などを運営推進会議に報告して意見を頂き、サービス向上に努めている。 ・運営推進会議の開催することにより、地域行事(フラワーロード事業、地域のお祭り等)への参加しやすい環境を整えている。 	定期的に運営推進会議を開催して、ヒヤリ・ハットで事故防止の取り組みや認知症についての啓発活動など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・市に対して、分からない点、疑問点を放置せず、都度確認しながらコンプライアンスの維持に努めている。 ・市や道に対する報告事項も適正に行なっている。 	市担当者とは、日常業務を通じて報告や助言等を得ながら情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・花の方針として身体拘束は行わない。 ・身体拘束の外部研修への参加や施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会を作っている。 ・夜間以外は玄関の鍵をかけることはなく、入居者様が外に出たい時は職員と一緒に出ている。 	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を外部研修参加や内部研修開催で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会をもうけている。 ・痣や傷の大きさが0.5mm位の小さなものでもユニット内で共有し、牽制し合う体制ができている。 ・精神面のフォローとして、役席によるスタッフへのカウンセリングを行っている。 			

自己評価	外部評価	項目	Aユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要性が認められる入居者様には、関係者と話し合い、後見人を選任していただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は、十分な時間を取り説明を行っている。その後についても施設とご家族様が互いに話しやすい環境提供に努め、疑問点については都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会があり、家族会主催の行事(苗植えの会)を開催して、準備の段階を含めてご家族様とスタッフとの親交が図られている。家族会総会において、苦情、事故、行事等の報告や要望を聞き対応するとともに、親交も図っている。 ・定期的に行なわれている運営推進会議に、入居者様とご家族様にも参加していただき、意見をいただいている。 ・ご家族様に対し、ケアプラン更新時に書面にて苦情要望等の情報を収集して対応している。	毎月「花だより」の発行や個別に近況報告・健康状態等の情報を提供し、意見や要望等を言い表せる機会を設けている。また、家族会の活動が活発で、苗植えから収穫まで一緒に行ったり、収穫祭や夏祭り、クリスマス会や祈願祭など多くの家族が参加して、意見交換する機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日朝夕の申し送り時や、全体会議やユニット会議等で、職員の意見を聞き、業務に反映している。	全体会議やユニット会議等を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見や提案を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアパス制度を導入するとともに、毎年10月に職員の昇給昇格を行っている。 ・職員に対して、内外の研修に積極的に参加できる機会を作っている。 ・資格試験の合格者に対して全体会議で表彰している。また報奨金や資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修では外部から講師を招いたりしながら研修を重ねている。また、外部研修も積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・他グループホームの運営推進会議に出席し意見交換の場を設けている。 ・お祭りや視察などを通じて他のグループホームとの交流を重ね、自分たちのケアの質や取り組み姿勢について考える機会がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で本人様に身体、生活状況、既往歴などの確認と困っている事や不安な事の要望を聞き関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	Aユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前の面談でご家族様に困っている事や不安な事の要望を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談や観察で情報と共有で必要な支援を見極め実施出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・出来る事はご本人様の力で行って頂き、掃除、調理、洗濯干し、たたみ等や買い物、収穫、散歩、食事などで、日常生活と一緒に関わる事で歩み寄って良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・行事が多くありご家族様との交流の機会も多くある。また、自由に面会時間をとっていただいている事で家族と力を合わせ入居者様の支援に協力し合う関係を築いている。 ・毎月発行している通信で近況報告などを伝えている。 ・電話での報告や来訪時には話し合える環境を設け支えて行く関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族様と自由に外食や買い物の出掛けをする。 ・電話や年賀状で連絡がとれる様に支援する。 ・馴染みに方が来訪しやすい様に努めている。	事業所主催の収穫祭や夏祭り等の行事の開催やお墓参り、初詣や日常の買い物などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・性格、相性、介護状態を考えてテーブル席を決めている。 ・入居者様同士が家事や食事、服を着せて上げる、ティッシュをとって上げ、食器の下膳などのしている。 ・気持ち良く関われ支え合える様に声を掛けたり見守って支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院で退去したり、亡くなったりした利用者様のご家族様と交流があり、花にお茶を飲みに来たり、ウエスなどを寄贈していただいたりするなど、とても良い関係を保っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人様に聞いたりご家族様からの情報を集めスタッフ間で生活状況の観察や気づきを共有し思いや暮らしの意向を把握に努めている。	生活歴の把握や日常の会話の中から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	Aユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・個人情報ファイルの把握とスタッフ間での情報共有に努めている。 ・ご家族様から情報収集する事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・バイタル測定、食事量、水分量、排泄面、体調面、生活状況などを介護記録に記入しスタッフ間で状況把握に努め共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人様の日常生活の観察と困っている事要望を聞き、ご家族様からも意見を聞いている。 ・モニタリングを行いそれをもとにしてミーティングやカンファレンスを行っている。現状に合った介護計画の作成をしている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケアプランで実施した事や生活の様子、気づきを毎日介護記録に記入し申し送りによって情報を共有している。問題点は会議で検討し介護計画の見直しに活かしているがケアプランに沿って介護記録に記入が出来ていない時中にはある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・旬の行事を数多く行い、外出する機会も取り入れている。 ・ボランティアや地域資源を生かした取り組みに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の商店に買い物に行ったり、近くの神社や公園を利用して楽しみを広げるよう努めている。 ・地域のお祭りに積極的に参加して入居者様スタッフ共に楽しんでいる。 ・困った事があれば、地域の民生委員、地区社協、地域包括支援センター、町内会の方々に気軽に相談している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・希望に合わせてかかりつけ医を選択している。 ・医療相談がいつでも受けられる様に支援している。	往診や常勤看護師との連携、日常の健康管理や通院への対応等で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・かかりつけ医の訪問受診の他に、施設看護師に日常生活、身体状況を伝え相談している。		

自己評価	外部評価	項目	Aユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・状況を伝え適切な治療が出来る様に入院先に伝えている。 ・早期に退院が出来る様に情報交換と相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	・かかりつけ医とご家族様で施設でムンテラを行い、方針をスタッフも共有し支援に取り組んでいる。	ターミナルケアをチームで実践している。また、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急マニュアルは所定の場所に設置してある。勉強会で訓練を行い実践力を身に付け、急変や事故発生に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・日中想定避難訓練を春秋一度づつ行い、地域の方にも参加していただいている。またこのとき消防設備業者に来ていただき、設備点検と職員に対しての設備仕様説明を行い、勤務者全員が火災報知機の作動させたり、消火器による消火訓練を行っている。 ・夜間想定火災避難訓練を何度も行い、全ての職員が夜間対応の訓練を行っている。	火災報知器の使用方や消火訓練、スプリンクラーの設備の使用方法等の緊急時に備えた訓練を実施している。また、避難場所も確保し、消防署や消防設備業者、地域の協力を得ながら、昼夜を想定した火災避難訓練を定期的に行っている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・尊敬語、丁寧語で接する様にしているが、入居者様への親しみから適した声掛けが出来る時と出来ない時がある。また、声の掛け方や声のトーン、声の掛けのタイミング意識して対応している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように声かけ等を職員間に周知している。	「丁寧な言葉使いや不快な言葉使い」について振り返る機会を作り、職員間で共有できるように検討しているので、その実践に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・着替えの衣類を選んだり、遊びや家事手伝いに誘う時などに選択出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・食事量の変更や湯加減など希望があれば対応する様に努めている。また、臥床時間などは、夜遅くまでテレビを観たり自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人様が自由に衣服を選び、困難な方でも選択していただけるよう努めている。 ・月一回は訪問理美容で整髪、毛染めなどとして、行事の時はお化粧もしている。		

自己評価	外部評価	項目	Aユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事作りや片付けをスタッフと一緒にいったり、一日の献立を声に出しボードに書き楽しみになる様にしている。 ・週一回は献立を考え買出し、調理とスタッフと一緒に実施したり、畑の野菜を収穫し食事の品数を増やして喜んで頂いている。	職員と一緒に食材の買出しや食事の準備、盛り付けや配膳、食事や後片付けなどを行っている。また、家族と一緒に畑で収穫した野菜で収穫祭を開催したり、時には外食を利用するなど食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりに合った食事と水分の量、形態、の提供している。 ・栄養管理されている食事の提供をしている。 ・摂取して頂けない時は、工夫した食事を考えて提供する事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・勉強会に積極的に参加しケア技術の向上を目指している。 ・仕上げ磨きと歯間ブラシの使用で口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・一人ひとりの排泄パターンの把握し汚染を減らせる様に定期的にトイレ誘導を行い排泄を促している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・バナナジュースや繊維を多く含む食事の提供を行い、毎日の体操や家事で体を動かし予防に取り組んでいる。 ・薬調整している方や座薬や下剤で排便を促す事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	・入浴日は決めて支援している。体調不良時やタイミングの合わない時は翌日に入浴して頂いている。希望によっては湯の温度調節をしたり仲の良い友達と一緒に入浴して頂いている。	入浴日は決めずに一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じた入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・家事や体操をして頂き夜間に寝て頂けるように努めている。また、昼寝をして頂いたり、夜も一人ひとりのペースに合わせて就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに薬の一覧表があり何時でも確認できるようになっている。 ・薬に変更がある時は必ず申し送り観察している。		

自己評価	外部評価	項目	Aユニット 自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活歴を把握してその人に合った家事や仕事で力を発揮し気分転換が出来る様に支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・玄関に鍵はかけていないので皆さん自由に戸外へ出ている。 ・週二回の買い物や外出希望があれば一緒に出かけています。 ・地域の活動や行事などで外出している。ご家族様も参加し一緒に過ごす事もある。 ・近くのコンビニへ声掛けし出かけられる様に支援している。	散歩や買い物、家族会や地域と協力した収穫祭や夏祭りの開催などで戸外に出かけられるように支援している。また、初詣や神社祭見物、地域のお祭りやフラワーロード参加、高校生や幼稚園児との交流等で普段は行けないような場所でも出掛けられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を持っている入居者様は一名で自由に使っている。 ・食材の買い物はスタッフと一緒に行き支払いをして頂く事がある。 ・買い物の希望があれば外出が出来る様に支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は誰でも希望があれば使える様にしており、携帯電話を所持している方が二名いる。充電の確認もしている。 ・年賀状の作成して家族や友人とのつながりを大切にしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・施設のリビングは日当たりも眺めも良く、広いベランダは野鳥が立ち寄り、自然を楽しめる環境がある。広い浴室と浴槽も皆さん気に入られている。 ・常に生花を飾り季節感を取り入れている。 ・四季を感じる行事を行い、その時の写真が飾られている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間からの眺めが良く、季節感が感じられ、廊下やリビングには行事参加の写真の掲示や季節ごとの飾りつけなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブル席の他にもベンチやソファがあり席も移動出来る様になっている。自由に好きな場所で過ごせるようになっており、居場所の工夫がされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具や好みの物、アルバムなどを持ち込まれている。	居室には、使い慣れた馴染みの家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、居室内は清潔感が感じられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・常日頃整理整頓に心がけ、危険物を排除し安全な環境となっている。 ・つかまりやすい高さに手すりが設置されていて手すりを利用される方も増えて来ている。 ・床のフローリングは滑りにくくなっている。 ・入居者様の状況に合わせて配置替えをして自立した生活が送れる様に工夫する事がある。			

Aユニット 目標達成計画

事業所名 グループホーム花

作成日: 平成 29年 2月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	27	・会議で検討し介護計画の見直しに活かしているがケアプランに沿って介護記録に記入が出来ていない時も中にはある。	・各入居者様の重点的なケアプラン項目を全員が把握して、その事について、必ず記載が出来るようになる。	・会議にて話し合い各入居者様の重点的ケアプランを選び実践して記録する。	1年
2	36	・言葉が適切ではない事が多い。 ・親しみから入居者様の尊敬の配慮が不十分な言葉遣いになっている事がある。	・丁寧な、不快ない言葉をつ合う。 ・いつでも入居者様の尊厳を大切に言葉遣いが出来るようになる。	・不快な言葉がある事を知り、尊敬語、丁寧語の使用を意識し会議で言葉使いについて振り返る。 ・丁寧な言葉を使い慣れる。不快な言葉がある事を知る。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

Bユニット 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902587		
法人名	有限会社オフィスマリヤマ		
事業所名	グループホーム花 Bユニット		
所在地	北海道旭川市春光台2条6丁目1-11		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902587-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ご家族様と良好な関係があり、対話やお便りなど入居者様との情報共有が出来ています。また、行事にお誘いすると、ほとんどのご家族様が参加されます。
- ・町内会を含む地域、学校、幼稚園の方々との交流に力を入れており、入居者様は、花の行事、地域行事への参加、ボランティアなどを通じて交流する機会が多くあります。
- ・菜園づくりを、種植えから収穫まで入居者様と一緒にいき、作物の成長や収穫の喜び、そして調理して食べる楽しみを共有できる環境にあります。
- ・口腔ケアの質を高め、誤嚥性肺炎の発症防止に活かされています。また、看取りケアへに生かされています。
- ・入居者様の帰宅願望による外出をかええる為に、日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

Bユニット 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	Bユニット 自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・年一回理念についての勉強会を開き、指針を明確化するとともに、前年度の評価を行い次年度につなげている。また、理念を基にした各自の目標や取り組みも明確にしている。 ・朝夕の申し送り等で理念を読み上げ、全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会の役員を務め、会議や行事へ参加しながら互いの意見の交換の場を作っている。 ・花主催の夏祭りは、地域のお祭りとして定着している。また、たくさんの町内や学生の皆さんにボランティアにてお手伝いを頂いている。 ・入居者様やスタッフは、地域のお祭り等に積極的に参加して交流の場を作っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・高等学校で認知症サポーター養成講座を開催している。また、交流会や実習の受け入れを積極的に行っている。 ・地域の皆さんからの施設選びや認知症対応についての相談を受けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・事故、ヒヤリハット報告、家族からの苦情などを運営推進会議に報告して意見を頂き、サービス向上に努めている。 ・運営推進会議の開催することにより、地域行事(フラワーロード事業、地域のお祭り等)への参加しやすい環境を整えている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市に対して、分からない点、疑問点を放置せず、都度確認しながらコンプライアンスの維持に努めている。 ・市や道に対する報告事項も適正に行なっている			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・花の方針として身体拘束は行わない。 ・身体拘束の外部研修への参加や施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会を作っている。 ・夜間以外は玄関の鍵をかけることはなく、入居者様が外に出たい時は職員と一緒に出ている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会をもうけている。 ・痣や傷の大きさが0.5mm位の小さなものでもユニット内で共有し、牽制し合う体制ができています。 ・精神面のフォローとして、役席によるスタッフへのカウンセリングを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	Bユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要性が認められる入居者様には、関係者と話し合い、後見人を選任していただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は、十分な時間を取り説明を行っている。その後についても施設とご家族様が互いに話しやすい環境提供に努め、疑問点については都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会があり、家族会主催の行事(苗植えの会)を開催して、準備の段階を含めてご家族様とスタッフとの親交が図られている。家族会総会において、苦情、事故、行事等の報告や要望を聞き対応するとともに、親交も図っている。 ・定期的に行なわれている運営推進会議に、入居者様とご家族様にも参加していただき、意見をいただいている。 ・ご家族様に対し、ケアプラン更新時に書面にて苦情要望等の情報を収集して対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日朝夕の申し送り時や、全体会議やユニット会議等で、職員の意見を聞き、業務に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアパス制度を導入するとともに、毎年10月に職員の昇給昇格を行っている。 ・職員に対して、内外の研修に積極的に参加できる機会を作っている。 ・資格試験の合格者に対して全体会議で表彰している。また報奨金や資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修では外部から講師を招いたりしながら研修を重ねている。また、外部研修も積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・他グループホームの運営推進会議に出席し意見交換の場を設けている。 ・お祭りや視察などを通じて他のグループホームとの交流を重ね、自分たちのケアの質や取り組み姿勢について考える機会がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りの情報を収集し、他職員にも情報を提供しつつ、馴染みのあるもの、こだわりのあるもの、好きなこと、好きなものなどを中心に関わりを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	Bユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の望む生活、父・母、夫、妻には「こうあってほしい」という望み、要望を聴集し可能なかぎり取り組んでいる。そのうえで出来ないことは、出来ないと正直に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを丁寧に行い、支援計画を立てて実施し、定期的にご家族様へ情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活の中で一緒にできることは行っている。その中でコミュニケーションを取り、生活の中でわからない事や個々の出来る事を、生活に活かしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族様だからこそ出来る、ご本人の喜ぶことには協力をいただいている。 ・ご面会時には、生活の様子などを細かく情報提供し、毎月おたよりで近況報告もしている。 ・外泊、外出、年賀状などの支援をしている。 ・行事などのご家族参加がある企画をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・整形外科などの専門医への受診には、継続できるよう努力している。 ・ご本人への電話の取次などは、話が出来るように工夫して援助をしている。 ・ご面会時には、ゆっくりとくつろいで過ごせるように取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・その時々に合わせて席替えを行っている。 ・可能な限り、くつろげる場所の提供をしている。 ・良い関係が出来るように、相性なども考慮して日々取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院で退去したり、亡くなったりした利用者様のご家族様と交流があり、花にお茶を飲みに来たり、ウエスなどを寄贈していただいたりするなど、とても良い関係を保っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・把握したことは、全スタッフで情報共有している。 ・希望、意向がかなえることが出来る出来るように、話し合いながら取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	Bユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・情報収集をした記録を全スタッフで共有してその情報を生活に活かせるように、ケアプランに反映させている。 ・ご家族様からの、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の記録、申し送りなどでは欠かさず話題に挙げている。 ・ケアプラン更新時のアセスメント時に情報収集をして、会議に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎日の記録は、介護計画にそったものにし、情報共有できるようにしている。 ・課題については、ご家族様にも伝え意見を聞いている。また、新たな課題が出た時には、話し合いの場を持っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・スタッフ間で情報を共有し、確認し合う機会を持っている。 ・介護計画を把握して記録をしているが、日々の生活の様子を観察する視点がまだまだ弱い。そのため記録や実践がうまく出来ない面がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・旬の行事を数多く行い、外出する機会も取り入れている。 ・ボランティアや地域資源を生かした取り組みに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の商店に買い物に行ったり、近くの神社や公園を利用して楽しみを広げるよう努めている。 ・地域のお祭りに積極的に参加して入居者様スタッフ共に楽しんでいる。 ・困った事があれば、地域の民生委員、地区社協、地域包括支援センター、町内会の方々に気軽に相談している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時に、ご家族様との話し合いを行いどのようにして行くかを決めている。 ・かかりつけの専門医への受診は、継続できるように取り組んでいる。 ・ご希望時には、ご家族の付き添いもしていた。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調の変化や気になる症状などは、早めに報告相談を行っている。 ・特に休日前には、気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	Bユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、可能な限り情報提供を行い、入院中には、状態の情報収集に努めている。 ・状態によって退院が出来る時期を見極め、関係者と話し合いをもっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	・体調の変化、身体状況の低下、認知症の進行状態など、悪化の兆しが見えた時に早めに話し合いの場を持っている。また、体調や状況によっては、何度も話し合いの機会をもち、ご家族様の意向確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的に勉強会を行っている。 ・急変の可能性や、事故発生の予測されるような時には、都度対応方法が実践できるように取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・日中想定避難訓練を春秋一度づつ行い、地域の方にも参加していただいている。またこのとき消防設備業者に来ていただき、設備点検と職員に対しての設備仕様説明を行い、勤務者全員が火災報知機の作動させたり、消火器による消火訓練を行っている。 ・夜間想定火災避難訓練を何度も行い、全ての職員が夜間対応の訓練を行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・話合の際には、個人名を出さずお部屋番号を利用している。 ・失禁した際には、臭いが出ない様早期対応に取り組んでいる。衣類の汚れに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者によって二択で答えられる声がけをしている。 ・感じの良い言葉がけをに気を付け、気持ちがプラスに動くような声がけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・可能な限り、個々のペースに合わせられるように努力をしている。 ・時間に合わせて声をかけるが、無理強いしない対応を努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その方の好み、その方らしいおしゃれに合わせて支援している。 ・食べこぼしなどの汚れに、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	Bユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食前、食後には、個々の出来る力に合わせて一緒に行っている。 ・週に一度、一緒に献立を考え個々の好きな献立を組み込むようにしている。また、目でも楽しめるような盛り付けになるように取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・その時の体調や食べる力に合わせて、食事形態を工夫して、個々に合わせた食事の量にしている。また、摂取量をチェックして、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎年勉強会で外部講師を招き、基本の口腔ケア方法やきれいになる丁寧なケアを学び、実践に生かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・個々に合わせて誘導時間を設定している。 ・可能な限りトイレでの排泄が出来るように、取り組んでいる。 ・自分で出来る力を活かして、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・1500CC前後の摂取量を目指している。 ・起床時毎日ドリンクに牛乳を提供している。また、週2回 バナナの食べる日を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	・個々に合わせた関わりで、声かけを行い、可能な限り、無理強いせずに関わりを持っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・就寝時間は、個々に合わせている。 ・個々に合わせて、お昼寝時間を提供している。体調に合わせて休んでも頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・往診や受診後の処方薬について、必ず情報収集し、毎回把握できるようにしている。 ・服薬の変更があった際には、情報が共有できるように、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	Bユニット 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の好きなこと、好きなものを把握して生活の中に活かし毎日取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご希望があるときには、その都度かなえられるように取り組んでいる。 ・外出や外泊などの機会にはご家族様とともに、協力をし合っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望があった際には、一緒に買い物をする機会を持っている。 ・ご本人がお金を使う力に合わせて、支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご希望があった際には、支援をしている。 ・年賀状を書く機会を持っている。 ・必要な時には、こちらから働きかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に合わせてた装飾をしている。 ・歩行や移動の妨げになるようなものを置かない。 ・その時々に合わせて気温の設定、換気を行っている。 ・食事中は、物音を立てない工夫をしている。 ・テレビなどの音もなく、静かな時間を作っている。 ・刺激の強い物音に注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・まずは、心地良く過ごせる場所を確保している。 ・隣合わせになる相手は、気の合う方との配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・可能なかぎり、全てを馴染みのあるものを置く様にご家族様からの協力を得ている。 ・新たに準備するものも、馴染みあるものに近いものを選ぶようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室入口には、表札をかけている。 ・お部屋だとわかる目印を使うなど工夫をしている ・歩行、移動に妨げとなるものはおかない。テーブル配置も工夫している。		

Bユニット 目標達成計画

事業所名 グループホーム花

作成日: 平成 29年 2月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	27	日々の生活の様子を観察する視点が弱い。またその時々 の注目すべき視点が弱い。 そのため記録や実践がうまく出来ていない。	①観察能力の向上	1. 毎日個々の観察ポイントを提示する 2. その提示に合わせて観察する 3. 気が付いたことを記録する 4. 全員で情報を共有し、把握する 5. それを報告する	一年
2			②情報収集して、それに必要なことが実践できる	1. 数日前からの個々の情報を毎日把握する。 2. 今注目すべき点を確認する。 3. 何をしなければならないかを確認する。 4. 必要な点を把握し、すべきことを実践する。 5. 実践した結果を評価する。	
3			③観察し、情報を収集し、実践しその結果を記録し、報告できる。	1. 何を観察したのかを考える 2. それがどうだったのか振り返る 3. それに対して何をしたのか振り返る 4. そしてどうだったのかを評価する 5. 記録する。	
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。